

さくらさんたちは6月21日にプラネタリウムへ行ってきました

名古屋市内の幼稚園・保育園に通う5歳児は例年、名古屋市科学館で行われているプラネタリウム鑑賞に出かけています。ののかぜ保育園では昨年度より、コロナウイルス感染予防のため、公共交通機関を使って出かけるのはやめて、バスを貸し切っていく事にしました。

大型バスが保育園の前に横付けにされると、子どもたちに歓声を上げて喜んでバスに乗り込み、伏見までのバスの旅を楽しんでいました。

さて、プラネタリウムでは七夕にちなんだ星座の話しや、太陽系の惑星の話など聞かせてもらい大満足の子もたちでした。

帰りのバスの中、「楽しかった〜！」と口々に言っている子どもたちでした。保育園に帰ってからは、お楽しみのお弁当が待っています。当日は生憎雨が降って来たのでホールで食べましたが、それぞれの家庭の味をおいしく楽しんで食べていた子どもたちです。

後日、蛍光絵の具を使ってプラネタリウムを再現したり、当日心に残ったことを描画にしたりしました。



沖縄「慰霊の日」

6月23日は、沖縄「慰霊の日」でした。77年前、本土決戦の捨て石とされた沖縄にアメリカ軍が進行し、島全体が焼かれ、全島民の4人に1人が犠牲になりました。このことを忘れないために、この日を「慰霊の日」として定め、激戦地だった糸満市の摩文仁の丘（まぶにのおか）に記念碑「平和の礎（いしじ）」が建てられました。そこには沖縄戦で犠牲になった人たちの名前が刻まれています。今年度この礎には、55人の方々の名前が新たに刻まれ、24万1686人の方々が刻銘されました。

毎年この場で「沖縄全戦没者追悼式」が行われています。コロナの影響で、昨年に引き続き今年度も式典は規模縮小しての開催となりましたが、玉城デニー知事は「平和宣言」の中で、「沖縄復帰の前年1971年に当時の琉球政府が日本政府・国会に提出した復帰措置に関する建議書において、『基地のない平和な島』としての復帰を強く望むと明記されている。しかしながら、今なお国土面積の約0.6%しかない沖縄に、日本全体の米軍専用施設の70.3%が集中しており、米軍基地から派生する事件・事故、航空機騒音、水質や土壌等の環境汚染など、県民は過重な基地負担を強いられ続けている」と訴えました。

そして、「沖縄から世界へ平和の声をつなげ、二度と沖縄を戦場にさせないために、核兵器の廃絶、戦争の放棄、恒久平和の確立に向け絶え間ない努力を続けていく」と表明しました。

毎年この追悼式では小学生から高校生までの児童・生徒から「平和の詩」を募り、代表作が読み上げられています。

今年度は小学2年の徳元穂菜さんが「平和の詩」を読み上げました。

ここでは内容を書くスペースがないので全文は玄関に掲示してあります。ぜひ皆さん読んでみてください。穂菜さんは、家族で宜野湾市の佐喜真美術館に行き、そこで見た「沖縄戦の図」（丸木位里・俊作）に衝撃を覚え、その感じた気持ちを詩で表現したと言います。



草刈り・プール設置作業ありがとうございました

担当だったみなさま、暑い中の作業ありがとうございました。早々に梅雨があげ、子どもたちは設置していただいたプールを満喫しています。

草が伸び放題になっていたり、つつじの木が生い茂っていましたが、きれいに剪定されました。ベランダの塗料も塗りなおされ、きれいになりました。ありがとうございました。